

札幌市の令和2年人口動態統計（確定数）の概況

1 合計特殊出生率は減少

合計特殊出生率は1.09で、前年の1.12から減少した。

札幌市の合計特殊出生率は、昭和35年以降、統計数値のある中では、昭和40年の1.93をピークに、昭和46年から49年の第2次ベビーブームの後から減少傾向が見られた。その後、一時的に上昇に転じた年もあったが、減少傾向が続き、平成17年には過去最低の0.98となった。以降、平成18年から若干ではあるが増加傾向を示していたが、平成28年は再び減少に転じた。

※ 合計特殊出生率とは

$$\text{合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女性人口}} \right\} \text{15歳から49歳までの合計}$$

ある年次について15歳から49歳までの女性の年齢別（年齢階級別）出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

2 出生数は減少

出生数は12,259人で、前年の12,741人より482人減少し、出生率（人口千対）は6.3で、前年の6.5から減少となった。

3 死亡数は増加

死亡数は20,261人で、前年の19,778人より483人増加した。

死亡率（人口千対）は10.3で、前年の10.0を上回った。

年齢調整死亡率（人口千対）は男性4.5、女性2.5で、男性は前年の4.6を下回り、女性は前年の2.5と増減はなかった。

※ 年齢調整死亡率とは

$$\text{年齢調整死亡率} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} \text{観察集団の各年齢} \\ \text{(年齢階級)の死亡率} \end{array} \right\} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{基準人口集団のその年齢} \\ \text{(年齢階級)の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢(年齢階級)の総和}}{\text{基準人口集団の総数}}$$

人口構成の異なる集団間での死亡率を比較するために、年齢階級別死亡率を一定の基準人口(昭和60年モデル人口)にあてはめて算出した指標である。

4 自然増加数は減少

自然増加数は△8,002人で、前年の△7,037人より965人減少した。
自然増加率(人口千対)は△4.1で、前年の△3.6を下回った。

5 死産数は減少

死産数は295胎で、前年の361胎より66胎減少した。
死産率(出産(出生+死産)千対)は23.5で、前年の27.6を上回った。
自然死産率(出産千対)は9.2であり、人工死産率(出産千対)は14.3である。

6 婚姻件数は減少

婚姻件数は9,131組で、前年の10,117組より986組減少した。
婚姻率(人口千対)は4.7で、前年の5.1を下回った。

7 離婚件数は減少

離婚件数は3,691組で、前年の3,845組より154組減少した。
離婚率(人口千対)は1.88で、前年の1.95を下回った。

※出生率、死亡率、自然増加率、婚姻率、離婚率、合計特殊出生率及び年齢調整死亡率は「令和2年国勢調査に関する不詳補完結果(参考表)」(総務省統計局)をもとに算出した。

○備考:21 大都市(東京都の区部と政令指定都市)別の合計特殊出生率については、国勢調査の結果解析年(調査実施の翌年)のみ国より発表を行っています。